太陽鉱工㈱
重金属類の精錬で高いシェア

神戸市生田区京町七二　クレセントビル
☎〇七八・三三一・三二八一

モリブデン、バナジウムなど重金属類の精錬メーカーだが、最近は熱交換機器の分野にも進出している。重金属類は、寒冷地のパイプライン、高張力鋼など高級特殊鋼を作るのに不可欠な添加剤で、同社はモリブデンでは市場占有率二二―二四％を占め、わが国の業界でトップ。バナジウムも首位争いを演じている。

同社はまた、旧鈴木商店の〝本家筋〟の企業である。その前身は、昭和の初めに鈴木商店の後継会社として神戸製鋼所、日商（現在日商岩井）など二十数社を傘下に収めていた太陽産業の鉱工業部門で、終戦後の財閥解体で太陽産業が解散した際、太陽鉱工が発足した。初代社長は高畑誠一氏（日商岩井相談役）で、今でも現役会長。高畑氏といえば、鈴木商店の二代目店主、岩治郎氏の娘婿で、かつての鈴木商店ロンドン支店長、日商社長として知られる。高畑氏から四十五年に社長を引き継いだ鈴木治雄社長は、鈴木商店の初代店主、岩治郎、よね夫妻の孫、柳田義一監査役は、金子直吉氏とともに鈴木商店の大番頭であった柳田富士松氏の長男――といった陣容である。

太陽産業時代から島根県・大東町にモリブデン鉱山、宮城県仙台、兵庫県赤穂市に精錬工場を操業していたが、大東町の鉱山は四十七年に閉鎖、現在は赤穂工場が主力になった。また昭和三十二年に福岡鉱業所、同四十一年に伊予工場を開設した。

同社の主力商品である重金属の原鉱石は輸入依存である。モリブデン鉱は、米国、カナダのロッキー山脈周辺の鉱山、バナジウム鉱は南アフリカ共和国などから輸入し、同社の赤穂工場で精錬・加工して酸化物、合金鉄を作る。モリブデン製品の最大の用途は鉄鋼メーカー向けで、各種特殊鋼、鋳鉄を作るのに添加剤として使われるほか、電子工業、無機化学工業向けの触媒、顔料、試薬などとして需要範囲は広い。バナジウム、ニオブ製品も同社の主力商品で、モリブデン製品と同様、主として鉄鋼用添加剤となる。需要先の製鋼メーカーでは、製鋼過程で添加剤を混入し強度、硬度、じん性（ねばり）、耐摩耗、耐熱性にすぐれた合金工具鋼、高張力鋼などの特殊鋼を作るもの。石油パイプラインなどの需要増加を反映して、同社の需要も伸びている。モリブデン精錬では同業九社、バナジウムは同業四社のメーカーが競合しているのに加え、いまは不況の波をかぶっているが、同社は伝統と技術力で乗り切ろうとしている。

ただモリブデン、バナジウムとも資源国が世界的にも限られており、輸入原料価格の値上がりが悩みのタネになっている。そこで同社は新しい資源開拓に真剣に取り組んでいる。その一つが重油燃焼後に出る重油灰に含まれるバナジウムを抽出するもので、同社伊予工場に月産二十トンのバナジウム抽出プラントを設置、重油燃焼灰という低品位資源の活用という面で業界に先鞭をつけた。さらに、五十二年度からはもう一つの新しい資源回収策を具体化する計画を進めている。これは重油の直接脱硫に使った使用済み触媒に含まれているバナジウム、モリブデンを回収するもので、同社赤穂工場で五十二年秋には年産四千五百トンの使用済み触媒を処理、有効資源を分離する抽出プラントを操業させる予定。これは産業廃棄物の有効利用で、省資源、公害防止両面に役立つと同社は期待をかけている。

神戸の中堅100社（日経神戸支社編）

【創業】大正８年**【設立】**昭和24年３月31日**【事業所】**支店＝東京、大阪◇工場＝赤穂、伊予、福岡**【資本金】**6,300万円**【事業】**非鉄金属精錬、化学工業薬品の製造、砕石、熱交換機器製造**【社長】**鈴木治雄（昭和16年関学卒、兵庫県出身）**【主要取引先】**（仕入）日商岩井、三菱商事、三井物産、丸紅、金商又一（販売）新日本製鉄、神戸製鋼所、大同特殊鋼、川崎製鉄、住友金属工業**【従業員】**202人（うち女子20人）**【採用・初任給】**大卒95,000円、高卒80,000円（52年４月）**【主要取引銀行】**太陽神戸銀行、三和銀行、富士銀行

【最近の業績】（千円・％）

年月	売上高	税引利益	配当
50.3	7,816,684	157,017	20
51.3	7,454,674	51,045	0
52.3	8,297,228	82,865	20

↘近狭心症をやって半年ぐらいは聖者の生活だったよ。それまでが自由奔放の生活だったから、きつかったね。今は順調にいっているがね。その時、七十、八十本吸っていたタバコもピタリとやめた。酒は根っから好きだし、適量だったらいいということで、毎日、水割り三杯程度かな。三渓園が近いので朝、散歩、庭いじり、犬と遊んだりといったところだね。それと「鈴木商店」時代、肺結核を患って、医者に「活力があれば、細胞の働きが活発になる。それが病気から身を守る術である」といわれた。そのことが、今でもただ一つの健康法ということになるかな。

（日刊工業新聞昭和52年11月12日）

◆原稿募集

内容　随想　短歌　詩　俳句　絵画
写真　鈴木往時の思出等
必ず原稿用紙で（縦書）
締切　四〇〇字詰　五枚程度
昭和五十三年五月末日
送り先　神戸市生田区京町七二
太陽鉱工（株）内
「たつみ」編集部宛

〈鈴木商店の人脈は栄えて〉

◆太陽鉱工社員の陣容　於 昭和三十五年十二月 東天閣

成広　寺尾　西川　山本　金月　中島　山添　笹記　藪内　野村　蔵原　浅野　鈴木社長　高畑夫人　高畑　橋本　柳田　金子　樽谷　沢村

謹賀新年
昭和五十三年元旦
太陽鉱工株式会社
柳田義一
〒六五一―〇一
神戸市生田区京町七二番地
クレセントビル六階　監査役室
電話（〇七八）三九一―二二五四